

移住地の警備は漸次不要に歸すべく又、現在の状況に於ては、鐵道沿線より長巨離の地方に移住地の建設は不可能であるが、馬賊の集團は漸次少數化する傾向を有するから匪賊五十乃至百名の集團に對抗し得るの設備があれば大体に於て十分と見ねばならぬ、依つて移住地は之れに對し大体左の如き警備の方法を講ずればよい

イ、二百戸の一村に在郷軍人四五十名を配置す

ロ、年齢十六歳以上四十五歳迄の男子を以て警備團を組織す

ハ、毎週若干時間訓練をなす

ニ、二戸毎に一挺の小銃を、又必要なる諸他の武器を配備す

ホ、村落の建設に警備を考慮す、例之、小學校を堅固にするとか、危険なる方面の土壁を厚くする

とか、又は望樓を造る等

ヘ、警備を兼ね少年團青年團の訓練をなす

ト、全村の警備方法を立てその演習をなす

八、屯田兵村の建設

イ、屯田用地の獲得方法 新國家をして國有地、官有地の整理、逆産土地の沒收及不在地主土地の報償回収を行はしめ地域（主として北滿洲）面積を指定して之を軍部の保管に移すこと

ロ、屯田兵制機關 屯田兵司令部を關東軍司令官の下に置く

ハ、屯田兵の募集

(一) 屯田兵司令部に募集官を置き滿洲駐屯軍除隊兵中より優先的に募集す

(二) 毎年約〇〇人（二個大隊）宛一〇ヶ年間に〇〇人を募集設定す

(三) 屯田兵は除隊後滿三ヶ年以内のものとする

ニ、屯田兵の設定

(一) 屯田兵村の組織

〇〇人を以て分隊とし〇分隊を以て小隊とし〇〇小隊を以て大隊とし一兵村とす

(二) 屯田兵に對する保護

屯田兵は初め三年間は屯田兵營に於て生活し四年目以降隨時妻帯し與へられたる土地に入り農業を營むものとし左の保護を與ふ

(1) 入地費金額補助

(2) 在營中の諸経費は全額官給とす

(3) 家族渡航費補助

(4) 第四年目に獨立經營する際に一人當五〇町歩の土地を貸與義務完了と共に無償交付す

- (5) 屯田兵營勤務中農業經營に依り得たる収入は獨立の際經營資金として交付す
- (6) 獨立經營の際經營資金の貸與を爲す
- (7) 獨立經營中兵事勤務に對し所定の給與を爲す
- (8) 獨立經營の際開墾に要する器具は無償貸與す
- (9) 屯田兵は入地後十年目を以て屯田兵の義務を解除せらるるものとす
- (10) 公傷戦死の場合は一般軍人と同等の扱を爲す

ホ、屯田兵村の改編

屯田兵村は設置後十年にして兵が全部屯田兵の義務を解除せられたるとき普通移民村に編入す

第七節 一 移住地建設の標準

滿洲はブラジルなどその趣を異にし、無人の地に新たに移住地を建設することは困難である、既に先住農民が多小に拘らず優先的に土地に土着して農業をして居る所が多い、之れ等の大部分は立のかしむることは出来るが、既に動かすことの出来ない程度のものも少なくあるまい、従つて、宏大なる移住用地を取得し、自由に移住地の建設を設計する譯には行かぬ事情にある、従つて一個の移住地を建設するに當りても、理想的の計畫は出来ない場合が多いのである、さればとて初期の移住者を分散的にばらまくことは猶更出来ないから、大小に拘らず集團移住地にせねばならぬ、従つて大小幾種類かの移住地が出来ることになり、一々特殊の計畫を立てねばならぬ次第であるが、茲にはその標準となり得る所に従ひて一案を試験的に提示して見ようと思ふのである。

一、移住地の戸數、面積、土地代

一 移住地の戸數及面積をどの位にすべきかについてはいろいろと考へねばならぬ
イ、一戸分の耕地面積からの考慮

- a、水田を主とし畑を従とする場合には七乃至八町歩
- b、南滿洲で畑作を中心とする場合には十町歩乃至二十町歩

- c、北東滿洲で畑作經營には二十町乃至五十町歩
- d、煙草の如き特殊作物を主とすれば十町歩位
- e、果樹を主とすれば五町歩位
- ロ、教育衛生からの考慮

- a、一村一小學校を維持する爲めには大体に二百戸一千人の人口を要する
- b、一村一醫局を支へる爲めにも約一千人の人口を要するので約二百戸と云ふことである
- ハ、地形からの考慮

- a、用地が幸に方形乃至圓形の場合には面積は大きくてもよい
- b、用地が狭長なるか、丘岡、河川等の障害物がある場合には戸数を多くすることが出来ぬ場合がある

以上の諸點を考へる、而して一平方里が約一千五百町歩でその中心に學校を建てるとすれば、遠い生徒は一里を通學せねばならぬ、寒い滿洲で一里の通學は幼少の子供には少し無理であるから、之れ以上の距離にすることは過大になる、従つて一移住地の面積は六千町歩以内と云ふ制限を受けねばならぬ、更に各種の産業機關の位置等のこともあり（驛に近い者は、産業機關を村の中央に建てると運賃を二倍拂はねばならなくなり、産業機關を驛に近くすれば遠い者は多額の運賃を拂はねばならなくなり

る）産業組合等は三四百以上になつてはやりにくい事情にもなるから、一村の面積は五千町歩位で、一戸平均廿五町歩とすれば二百戸を收容し得ることになる。試みに一村の戸数と面積を記せば

イ、水中心一戸八町歩	四百戸	三、二〇〇町
ロ、畑中心一戸十五町歩	三百戸	四、五〇〇町
ハ、東北滿洲畑作一戸卅町歩	二百戸	六、〇〇〇町
ニ、特殊作物一戸十町歩	四百戸	四、〇〇〇町
ホ、果樹一戸五町歩	五百戸	二、五〇〇町

移住用地は取得の方法に依つて大差がある、政府間の交渉に依つて無代又は非常に格安に得らるるかも知れないが昭和七年五月に滿洲で實地に調査した所では、吉林省内の既墾の上田で、交通、警備等の都合のよい所で反當十圓内外、中田で交通、警備中位のもの反當五圓内外、草地未墾地の上等反當三圓、中等反當二圓、その他反當一圓位であつた

土地は特殊の事情に依り別特の安物があるが、此種の物には何かの不便不利がついて居るから、少しは高くてもよい土地をあまり手数をかけずに取得するが便利である。かくて一村の土地取得に要する資金（これは政府に出して貰はねばならぬが）は大體左の如くである

イ、既墾上田	一千町歩	十萬圓
--------	------	-----

- ロ、既墾中田 二千町歩 十萬圓
- ハ、未墾地 五千町歩 十萬圓
- ニ、混 合 六千町歩 十五萬圓乃至廿萬圓

大体一移住用地代金は十萬乃至廿萬圓を要すると見れば大きな違算はないと考へらるる、政府の力で特別の利便が得られれば更に安價になる。

二、一村の諸施設

一村の設備としては、道路があるが、これは村民の勞力奉仕に依り布設の費用は政府に負担して貰はねばならぬ、但し修繕費等は村の負担とする。又、土地に依つては排水灌溉の設備を要する、若し之れに當初より多額の負担をする様になれば、朝鮮各地の水田事業の如く、村民の負担過大となり一村は經濟的に立ち行かぬことになるから、當初は多額の經費をかけず、勞力は村民の奉仕とし少額の資金でやれる様な土地を選定せねばならぬ、而してどうしてもやらねばならぬ施設の種類を列記すれば

- イ、村役場 産業組合と兼ねて建築するを便とす
- ロ、小學校 場合に依り分教場を要す
- ハ、醫 局 場合に依り二村一醫局にて間に合ふ
- ニ、製 瓦 場 附近に利用出来るものあれば當初は不用

- ホ、精米所 特殊の場合には大に利用が出来る
- ヘ、油 房 材木の利用出来る村に必要
- ト、木工所 一區又は一組毎に必要
- チ、共同作用場 一村一組合、商店と必要ならば旅館もを經營するは當然
- リ、産業組合
- ヌ、共用大農具

以上の外特殊の場合には、或は煙草、ホップ等の乾燥物ハツカの加工場、澱粉、酒精工場等が必要であらう

移住地建設の當初移住者の經濟は極めて貧弱であるからこれ等の諸設備に要する經費は政府の出資により、一部は補助として無償交附を受け、産業機關は年賦償還をなさしむるものとす。

三、一移住地の經營

移住地經營の成敗は適當なる中心人物を得るや否に依つて決定する、土地があり資金があり移住者があつただけでは移住地の經營は成功するものでない、之れに反してよき中心人物を得た場合にはその他に於て多少の不便な事情にあつても移住地は大成するものであるから、各地方に於て移住地經營に着手せんとする場合には之れに適當せるよき人物の有無を第一條件とすべきである、此人物が

得られないなら諸他の事情はよくても移住地の經營を開始せぬ方が萬全である。而かも少なくとも中心人物二人を要し、一人は府縣に居つて内國の仕事をなし、一人は移住地にあつて現場の仕事をなし而して此兩人が完全に一致出來ねばならぬ、これが困難第一の要件だ。

- イ、内地に於ける移住地經營の事業
 - a、府縣海外協會の組織及びその内容充實
 - b、滿洲と協力して移住用地の選定及び設計をなすこと
 - c、移住の宣傳
 - d、移住者の募集
 - e、移住者の訓練
 - f、移住者の輸送
 - g、移住者の後援に關する諸事業
 - h、移植民の調査研究
- ロ、移住地に於ける事業
 - a、滿洲の風土その他の基本的調査研究
 - b、移住用地の選定及び設計

c、入植の諸準備、移住者宿泊所、住宅、井、公用建物、種子農具肥料の準備、野菜の耕作（之れは初期の移住者が欠乏を訴へるものだ）その他

- d、移住者の出迎
- e、土地の配分
- f、移住者の指導及救護
- g、産業組合の組織及指導
- h、内地との聯絡
- i、移住地諸機關の運用
- j、警備

移住地の建設はトテモ多忙の仕事であるから日曜祭日を休んだり、八時に出勤して四時には事務所を空にして置く様なことではよき結果を見ることは出來ない。

四、資 金

府縣で一移住地の建設をするとしてその所要資金の概算は左の如くである、伸縮の出來るは元よりである

イ、移住用地は三千町歩と假定す

ロ、移住者二百戸とす
ハ、豫算

番 號	項 目	經 費	備 考
一	内地事務所費	一〇、〇〇〇圓	半額を政府補助、四分の一を府縣費補助四分の一を府縣民負担とす
二	移住地事務所費	一〇、〇〇〇圓	同 前
三	移住者及資金募集費	一〇、〇〇〇圓	全額政府出費
四	移住者へ借附金	一〇〇、〇〇〇圓	一戸五〇〇圓 二百戸
五	土地代金	一〇〇、〇〇〇圓	土地三千町歩 政府出資 年賦償還
六	村役場建築費	三、〇〇〇圓	坪六〇圓五十坪 政府出資 年賦償還
七	小學校費	三〇、〇〇〇圓	二萬圓建築 一萬圓經費 政府出資補助
八	醫局費	二〇、〇〇〇圓	建築費及經費若干の收入と差引きたるもの政府補助
九	製瓦場費	五、〇〇〇圓	政府出資年賦償還
一〇	油房費	五、〇〇〇圓	同 右
一一	精米所	一〇、〇〇〇圓	同 右
一二	木工場費	一〇、〇〇〇圓	同 右
一三	共同作業場	一〇、〇〇〇圓	同 右
一四	産業組合費	一五、〇〇〇圓	同 右
一五	共同大農具費	一〇、〇〇〇圓	同 右

一六	一六	一六
豫	備	計
金	金	金
一一、〇〇〇圓	三六〇、〇〇〇圓	

註、一、政府の負擔となる金額

- イ、補助金 二八八、〇〇〇圓
- a、事務費補助 七〇、〇〇〇圓
- b、募集費 一〇、〇〇〇圓
- c、教育、衛生費 一〇、〇〇〇圓
- d、低利資金 五〇、〇〇〇圓
- e、土地代 二一八、〇〇〇圓
- f、諸設備費 一〇〇、〇〇〇圓
- g、府縣の負擔となる金額 一一八、〇〇〇圓
- h、府縣費補助 一二二、〇〇〇圓
- i、府縣民間の負擔 五、〇〇〇圓
- j、府縣關係出資金 五、〇〇〇圓
- k、豫備金 一〇〇、〇〇〇圓
- l、豫備金 一二、〇〇〇圓

第八節 移住者一戸の營農標準

一、移住者の覺悟

北米で一日に三弗も五弗も取れる話を聞いた移住者が、北米は排斥されて行けないので南米に行つた。然るに南米では一日に一圓か二圓にしかならないので、不平を云ふたり失望したりした。目下日本の海外移住は南米ブラジルに限られた様に考へ込んで居る、氣候がよくて、バナナやパイナップルが實つて、珈琲の花がさいて、米は一ケ年に四ヶ月まきつけ無肥料で當反三石の收穫がある云々と云ふ話を聞き込んで居る、その様な頭で滿洲に来ると大失望をする、滿洲は宣傳される如き樂土でも天國でもない、苦勞しなければ食ふて行けない所である、冬は寒くて仕事が出来ない、春の蒔付と秋の收穫は非常に多忙である、氣候や土質の關係から作物にも制限がある、仲々以て容易に生活の出来る所ではないのである、従つて文字通りに非常の覺悟で生命がけになつて働かねば喰ふて行ける所ではない、只、日本の現況に比較すれば苦勞の仕甲斐がありさうだと云ふ丈けのことである、だから移住者はその決心が出来ないなら寧ろ移住せぬ方がよいのである、「國の爲め」「國の爲めだ」と云ふて、一時的のこう奮では、滿洲の農業移民として成功は出来ない、百折不撓の覺悟が必要である但し之れは世界何れの邦土でもその通りで、北米の様に黄金のただようて居る所でも市街地には乞食の群衆がう

ようよして居る、滿洲にも市街には乞食の群が一杯である。由來、事業の成敗は自分の努力が第一で、土地は第二第三である、滿洲は行きさへすれば成功の出来る所ではないのである。くれぐれも惡戰苦闘の覺悟が在ることを知らねばなりません。

二、旅費

滿洲移住に要する旅費はその通過する行程に依つて違なるが、近き將來に敦賀が出發港となるであらう、汽船で雄基まで二日位かかる、雄基から長春まで五六百軒であらう、盛に移住が實施される様になれば、旅費は半額乃至無料になるか政府で補助してくれる様になるであらうが、自費三等で行けば五十圓内外でよからう、大人小人を合せた五人の家族で平均二三百圓と見ればよい。

三、服

男は洋服がよい、カーキの勞働服で結構であるが、只婦人服が問題である、先づ信州や東北の雪袴やタツツケを持つて日本服のままで行くがよいであらう。而して滿洲に着いたら支那服にかへるがよい、第一支那服は勞働に便宜であり、安くて、強くて、衛生的でもある、夏服ならば二三圓から冬服でも七八圓、外出用の立派なものでも三四十圓あれば、農家の婦女としては立派なものである。子供は洋服がよいが、私は支那服の方が洋服よりも遙かに滿洲向きだと思ふ。

四、住宅及井

移住地の住宅については二種の議論がある、第一は当初は粗末なもので我慢して余裕が出来るに従つて立派なものにせよと云ひ、第二は移住者を粗末な家に入れて置くのは可愛さうであり非衛生的であり、定着せぬから、始めから相當のものを建築するがよいと云ふのである。それで私は滿洲で實際について移住者の意見を聞いて見たが、彼等は始めから立派な家を建てて借金と利子に苦しむよりも粗末な家から始めて漸次改良して行くがよいと云ふ結論であつた。それで二百圓から三百圓位の支那式の温突のある住宅から始めるがよいと思ふ。

井は所に依つて水のよしあしもあり、深いのも浅いのもあるが、概して滿洲は日本より水が悪いから、所によると水こしを準備せねばならぬ所もあるが、井堀は自分でもやれるし共同井戸にしてもよい、支那人に金をやつて掘つて貰ふ必要はないし簡単なポンプを設備すれば飲料水には困らない、殊に吉林の東部地方には水は澤山にあるが、敦化附近は山がかつた所であるに拘らず水は硬質で首にこぶが出来たり、手の指の節が短くなつたり、セムシになつたり、或は婦人病の素因になつたりすると云はるるが、敦化に居住して居る日本人には左様の患者は出来た例がないとの事であつた。

五、農具・種子・肥料

滿洲の農業移住をするにつけて考へねばならぬことは、日本人が如何なる營農方法をやるべきかと云ふことである。支那人のまねをしても駄目であり、日本本國でやつた様なやり方は猶駄目である、

理想は滿洲で日本人に適して營農方法を案出することであるが、それには時間と犠牲がいるから、移住の當初は先づ支那式にやつて見ることである、それに日本人の頭と腕を加へて漸次改善して行くこと云ふことになる。

従つて先づ農具は日本のものは皆携帯して行くがよいが支那式の農具を購入せねばならぬ。いろいろの種類があるがその価格は非常に低廉なものである、但し集團移住地では共同して大農具を購入し耕作上の能率をあげて行かねばならぬ。

種子は滿鐵の農事試験場に前以て依頼して置けば相當優良なものを得らるるが、場合に依れば大部分を支那人から購入せねばならぬし、日本と違ひ滿洲人は非常にあつ蒔きをするから種子の分量は多くるのである、日本の種子物を持つて来て試験的にやつて見るのは有益のことであらう。

滿洲の南部では毎年肥料をやり中央では二年に一回、北部では三年に一回、新しい所では無肥料と云ふことであるが、かくては地力を奪掠することになるから必要丈けの肥料をやらねばならぬ。滿洲人は「土糞」を唯一の肥料として居る、土と馬糞や人糞等を混合して住宅の附近に推積して置くので種子を蒔く前に反當馬車十台内外をやるのであるが、それだけでは必ずしも充分ではない。

六、小 作 人

滿洲で農業經營をやるに日本人だけでやるか鮮人や支那人を勞働者又は小作人として使用するかに

ついでには議論がある、日本人としては日本人丈で生活する様に集團部落を作るがよいが、労働者又は小作人としては彼等の安い勞力を利用するがよいと思ふから、日本人の生活を害さぬ程度に彼等の住宅を分散的に作つてその力を利用するがよい、只、支那人や鮮人の地主よりも日本人の地主の方がよりよき取扱ひをしてやる必要があるし、朝鮮でも滿洲でも始めは日本人が自分で勞働したが、鮮人や支那人の労働者を使役する様になると自分では勞働をしなくなり、それが爲めに營農がうまく行かなかつた例は澤山にある、私の調査した所では、滿洲に於ける日本人の農業成功者の九割は自分で鮮人と共に勞働した人々であつた。

七、營農標準

私は滿洲で實際に農業を經營した人々から實地の計算を得たいと苦心したが、多くはその材料を持つて居らぬし、急に作つて貰ふたものは如何にも粗末であつたりして都合よく行かない、止むを得ず滿鐵關係で發表されて居るものを茲に御紹介するのであるが、これは亦如何にも理想的で、農業經營がか様に規帳面に行くや否、又、始めて滿洲に来て仕事に馴れず、事情不知の者がこれだけの成績をあげ得るや否は大なる疑問であるが、何しろこれ以外の材料を得られないので、移住者は數年を経て努力すれば此程度までは進めるであろうと思ふのであるから、その數例を左に轉載することとする。

イ、水稻作を主體とする收支案 (其の一)

(1) 水稻作を主體とする經營に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす。

- 水稻 五町歩
- 桑(又は果樹) 一町歩
- 蔬菜類 一反歩
- 普通作物(大豆、粟、高粱、玉蜀黍) 一町八反歩
- 豚 蕃殖牝豚四頭
- 鶏 産卵鶏五五羽

右の外場所によりては養蜂を取入るること。

(2) 固定資本

(A) 土地資本

種目	數量	單價	金額	額	摘	要
----	----	----	----	---	---	---

種目	數量	單價	金額	摘要
土地購入費	八町		二、〇〇〇・〇〇	一反歩は宅地に充當す
造田費	五町		一五〇・〇〇	
灌排水工事費	同		五〇〇・〇〇	
計			二、六五〇・〇〇	

(B) 其の他の固定資本

種目	數量	單價	金額	摘要
住宅	一棟		三〇〇〇・〇〇	支那式家屋
竈室	一棟		二〇〇〇・〇〇	
倉庫兼苦力	一棟		一五〇〇・〇〇	
厩舎	一棟		五〇〇・〇〇	
豚舎	一棟		五〇〇・〇〇	
鶏舎	一棟		五〇〇・〇〇	
井戸	五戸共用	一〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	一部落五〇戸共同設備間口五〇〇 一間奥行三〇〇間
土壁	一部落成用	一・五〇	四八・〇〇	
種豚	牝一頭五戸共用	一五〇・〇〇	六三・〇〇	一間奥行三〇〇間

(C) 事業收支

初年度 収入

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘要
稻	二、八石	一四〇石	六・五〇	九二〇・〇〇	
稻	八〇貫	四、〇〇貫	〇・三〇	一二〇・〇〇	
養蠶				五〇〇・〇〇	
蔬菜				四〇〇・〇〇	
在來作物	一、三石	二、三、四石	四・五〇	一〇五・三〇	
在來莖	一〇〇把	一八、〇〇〇把	七〇	一二・六〇	
哺育仔豚			二・五〇	五五・〇〇	生産仔豚四頭内斃死四頭と見て残り四頭の二分の一賣却 三〇羽六ヶ月
鶏卵	六〇箇	一、八〇〇箇	〇・二〇	三六・〇〇	
鶏雄		三五羽	一・五〇	五二・五〇	
尿糞				四八・五五	

糶摺は共同設備

種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
雞拔		三五羽	一五	五・二五	
雞卵		二五羽	三〇	七・五〇	
尿糞類				六〇・八〇	
勞働收入		二〇〇人	三〇	六〇〇〇	
副業及雜收入				三〇〇〇	
計				一、九一四・八五	

支出

種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
種扱	一斗		七〇〇	三五〇〇	
澁排水	二〇錢	五石		一〇〇〇	
蔬菜種子	五圓			五〇〇	
蔬菜藥劑	五〇錢			五〇	
在來作物種子	二〇錢			三・六〇	
肥料				一三九・〇〇	
勞役賃料		一、一七五人	三〇	三五・〇〇	
耕牛飼料			四〇〇	四八〇〇	〔牡〇・二頭、牝四頭、哺育豚四八頭肥豚二二頭〕
豚飼料				二三五・〇五	

種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
初生雞		一〇〇羽	二〇	二〇〇〇	〔初生雞時代一〇〇羽、產卵雞前年生二五羽、若雌三〇羽〕
原價				四九・三五	
諸稅	五〇錢			一・八・五五	
諸費				四〇・五〇	
生計				三〇〇・〇〇	
雜費				三〇〇・〇〇	
計				一、三八五・五五	
差引				五二九・三〇	

ロ、南滿地方畑作を主體とする收支案

(1) 南滿地方畑作に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす

煙草 〔又は果實、草花種子、忽布、薄荷、水稻、但し煙草以外の作物のときは多少面積を増加するを要す〕 一町歩

棉花 〔奉天以北は棉花に適合ざるを以て適宜他の作物に代ふることを此の場合には多少面積を増加するを要す〕 二町歩

蔬菜 二反歩

落花生(奉天以北は大豆) 一町歩

陸稻 一町歩

在來作物(高粱、粟、玉蜀黍)

ルーサン

二町七反歩

桑

一町歩

豚(又は肥臘牛、養兔、緬羊)

蕃殖牝豚四頭

鶏

産卵鶏五五羽

右の外場所によりては養蜂を取入るること。

(2) 固定資本

(A) 土地資本

土地購入費一〇町(一反歩は宅地に充當す)反當り三〇圓 三、〇〇〇圓

(B) その他の固定資本

種目	數	量	單價	金額	摘要
住宅	一	棟	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	支那式家屋
蠶室	一	棟	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	
乾燥室	一	棟	二五〇〇〇	二五〇〇〇	
倉庫兼苦力舍	一	棟	一五〇〇〇	一五〇〇〇	
厩舍	一	棟	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	

種目	數	量	單價	金額	摘要
豚舍	一	棟	五〇〇〇	五〇〇〇	
井戸	一	眼	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	
土壁	一	頭	五〇〇〇	五〇〇〇	
耕馬	一	頭	七〇〇〇	七〇〇〇	
種豚	一	頭	六三〇〇	六三〇〇	
農具	一	式	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	
計			一、六三三〇〇	一、六三三〇〇	

(3) 事業收支

初年度

收入

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘要
葉煙草	三六貫	三六〇貫	一・五〇	五四〇〇〇	
同府葉聯	五貫	五〇貫	四〇	二〇〇〇〇	
棉花	一六貫	三二〇貫	一〇〇	三二〇〇〇	
蔬菜	四〇圓	八〇〇圓	八〇	八〇〇〇〇	
落花	三五〇斤	三、五〇〇斤	二・二〇	七七〇〇〇	

種	別	反	當	總	數	量	單	價	金	額	摘	要
煙草及蔬菜藥劑費	種									二〇〇		反當り煙草十錢蔬菜五十錢
棉花種子	種				三五〇斤	一五				四・五〇		
落花種子	種				三五〇斤	二・二〇				七・七〇		
陸稻種子	種				六斗	五・〇〇				三・〇〇		
在來作物種子	種									五・四〇		
ル1サン種子	種									二五・〇〇		
桑苗	種				一、〇〇〇本	〇二				二二・八・五〇		反當り桑一五圓棉花一圓蔬菜一圓陸稻、ル1サン其他在來作物五〇錢
肥	種				二五五庇	一・〇〇				二二・〇〇		反當り煙草三人蔬菜三人
勞役	種				九九五人	三〇				二九八・五〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
耕馬飼料	種					五・〇〇				六〇・〇〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
豚飼料	種					二〇				一五三・七五		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
初生飼料	種				一〇〇羽	二〇				二〇・〇〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
雜糞	種									一六三・七五		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
原價	種									三三・六〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
諸稅	種									五〇・五〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
生活費	種				大人二人 小人一人	一〇町一反				三〇〇・〇〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人
計	種									一、五四七・二〇		反當り陸稻、ル1サン其他在來作物五人

種	別	反	當	總	數	量	單	價	金	額	摘	要
煙草種子	種				一匁	一〇匁				一・〇〇		苗床材料中數年間使用し得るものは其の平均に依る
蔬菜種子	種									一三〇・〇〇		
計	種									一〇〇・〇〇		

支出

種	別	反	當	總	數	量	單	價	金	額	摘	要
陸稻	種				一七石	五・〇〇				八五・〇〇		
在來作物	種				三五・一石	四・五〇				一五七・九五		
葦	種									三五・〇〇		
ル1サン	種									三七・五〇		
養蠶收入	種				二、五〇〇庇	一・五〇				五〇・〇〇		生産仔豚四八頭内鬮死四頭と見て残り四四頭の二分の一賣却
哺育仔豚賣却	種				二二頭	二・五〇				五五・〇〇		三〇羽六ヶ月
鷄拔	種				一、八〇〇箇	〇二				三六・〇〇		
鷄糞	種				三五羽	一五				五・二五		
尿糞	種									四八・五五		
勞働收入	種				二〇〇人	三〇				六〇・〇〇		本人及家族自家勞働
副業及雜收入	種									三〇・〇〇		
計	種									一、六三七・二五		

差引利益

九〇〇五

二二四

二年 收入

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘要
葉煙草	三八貫	三八〇貫	一・五〇	五七〇・〇〇	
屑葉	六貫	六〇貫	四〇	二四〇・〇〇	
棉	一六貫	三二〇貫	一〇〇	三二〇・〇〇	
蔬菜	四〇圓			八〇〇・〇〇	
落花	三五〇斤	三五〇〇斤	二・二〇	七七〇・〇〇	
陸來作物	一・七石	一七石	五〇〇	八五〇・〇〇	
荳稈	一・三石	三五・一石	四・五〇	一五七・九五	
ルサ	六〇〇疋	六、〇〇〇疋	一・五〇	九〇〇・〇〇	
養蠶				七〇〇・〇〇	
哺育仔豚		二二頭	二・五〇	五五〇・〇〇	
肥豚賣却		二〇頭	一五〇〇	三〇〇〇・〇〇	
鷄卵		三、三〇〇個	〇二	六六〇・〇〇	前年生二五羽@六〇ヶ
鷄拔		三五羽	一五	五二五	若雌三〇羽@六〇ヶ

支出

種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
鷄糞		二五羽	三〇	七・五〇	
尿糞				五四・八〇	
勞働		二〇〇人	三〇	六〇〇・〇〇	
副業及雜收入				三〇〇・〇〇	
計				二、〇八七・五〇	

種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
煙草種子	一匁	一〇匁	一〇	一〇〇	
苗床及乾燥材料	一三圓			一三〇〇・〇〇	
蔬菜種子	五圓			一〇〇〇	反當り煙草一〇錢、蔬菜五〇錢
煙草及蔬菜藥劑費				二〇〇	
棉花種子	一五斤	三〇〇斤	一五	四・五〇	
落花種子	三五斤	三五〇斤	二・二〇	七七〇	
陸來作物種子	六升	六斗	五〇〇	三〇〇	
在來作物種子	二〇錢			五・四〇	
勞働賃				二九八・五〇	
肥料				二一三・五〇	
馬飼料				六〇〇・〇〇	

在來作物の内一町歩煙草の後作に付無施肥

二二五

差引益金	計	雜費	生費	諸活課	原價償却	鷄飼料	初生雛	豚飼料
529.50	1,558.00	300.00	300.00	505.00	137.50	493.50	200.00	235.05
							100羽	
							20	
								235.05
								48頭肥豚前年生20頭
								初生雛時代10羽產卵
								牡0・二頭牝四頭哺育豚

ハ、北滿地方畑作を主體とする收支案

(1) 北滿地方畑作に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす

- 大豆 八町歩
- 玉蜀黍 六町歩
- 粟 六町歩
- 小麥 六町歩
- 燕麥 一町歩
- ルーサン 三町歩

豚 蕃殖牝二頭
 鷄 産卵鷄五五羽
 乳牛 三頭
 綿羊 牝羊三〇頭

右の外塲所によりては忽布・馬鈴薯を栽培す又土地の總面積は四〇町歩なるも内一〇町歩は宅地及放牧地とす。

(2) 固定資本

- (A) 土地資本
 - 土地購入費 四〇町歩 反當り五圓 二、〇〇〇圓
- (B) 其他の固定資本

種目	數	量	單	價	金額	摘	要
住宅	一	棟			三〇〇〇〇	支那式家屋	
倉庫兼苦力舍	一	棟			二〇〇〇〇		
厩舍	一	棟			一〇〇〇〇		
豚舍	一	棟			五〇〇〇		
鷄舍	一	棟			五〇〇〇		
羊舍	一	棟			一五〇〇〇		

大豆種子	種子	段	當	總收量	單價	金額	摘要
大豆種子	粟	一・二石	七二中	三・五〇	二五二・〇〇		
	麥	一石	六〇石	七・〇〇	四二〇・〇〇		
	燕	六〇〇庇	二五石	二・五〇	六二五・〇〇		
	ル		一八、〇〇〇庇	一・二〇	二一六・〇〇		
	莖		一頭	二・五〇	二七・五〇		
	哺		一頭	一・五〇	一五〇・〇〇		
	肥		一頭	二・五〇	二七・五〇		
	鷄		一頭	一・五〇	一五〇・〇〇		
	拔		三、三〇〇個	〇・二	六六・〇〇		前年生二五羽@六個、若雌三〇羽@六個
	廢		三五羽	一・五	五二・五〇		
	羊		二五羽	四・〇	七五・〇〇		
	仔		一九二封度	四・〇	七六・八〇		次年度よりは本年生仔羊の毛二四頭分@六封一四評價格を増す
	勞		二四頭	八・〇〇	一九二・〇〇		
	業		二〇〇人	五・〇	一〇〇〇・〇〇		
	計				二、四四三・五五		

大豆	品名	段	當	總收量	單價	金額	摘要
大豆	勞	一・二石	五人	一、五〇〇人	五〇	七五〇・〇〇	
	役			五頭	三・〇〇	一八〇・〇〇	
	豚			一〇〇羽	二・〇〇	二〇〇・〇〇	
	初			三二頭	四五	一四六・四〇	夏期六ヶ月間を放牧す(飼料は冬期六ヶ月分)
	羊			三五〇人	四〇	一四〇〇・〇〇	
	家畜管理勞役			四〇町歩		八〇〇・〇〇	
	公			一人		三〇〇・〇〇	
	生			二人		二二一・七〇	
	原					三〇〇・〇〇	
	雜					二〇三七・九一	
	差引計					(一)一四七・八六	

(右の外土地代及造田費八〇〇圓を要す)

B、事業の收支

初年度

収入

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘要
稻	二〇八	一六八石	六・〇〇	一・〇〇八・〇〇	大正元年より昭和三年迄の中等品
粟	七五貫	四、五〇〇貫	三〇	一三五・〇〇	一〇・四二
雜穀	一・三石	一三石	四・〇〇	五二・〇〇	
荳	一〇〇把	一、〇〇〇把	五〇	五〇・〇〇	
牛糞	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	六〇	六〇・〇〇	
養鶏収入				四八・二〇	
養豚				一三七・〇〇	平均収入により算出
計				一、三九一・二〇	

支出

種目	反當	總收量	單價	金額	摘要
種					
目					
反當					
總收量					
單價					
金額					
摘要					

種	雜穀	水田肥	畑作肥	勞賃	役畜飼料管理	鶏飼料管理	豚飼料管理	諸材料	農具維持費	建物	水利費	諸税公課	生活費	計	收支差引
種															
雜穀	一斗														
水田肥		六石													
畑作肥			一、〇五〇人												
勞賃				三〇											
役畜飼料管理				五〇											
鶏飼料管理				二〇〇											
豚飼料管理				二〇〇											
諸材料				一・五〇											
農具維持費				三・五〇											
建物				四八・二〇											
水利費				七五・〇〇											
諸税公課				一〇三・五〇											
生活費				五〇・〇〇											
計				一、三〇〇・七〇											
收支差引				四〇〇・〇〇											
				九〇・五〇											

備考 役畜、建物、農具の償却費は計上せず

二年度

収入

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘要
稻	三〇〇石	一八〇石	六・〇〇	一、〇八〇・〇〇	
粟	八〇貫	四、八〇〇貫	三〇	一四四・〇〇	
雜穀	一三石	一三石	四・〇〇	五二・〇〇	
荳	一〇〇束	一、〇〇〇束	六〇	六〇・〇〇	
牛糞	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	六〇	六〇・〇〇	
養雞收入				一二七・三〇	
養豚				一三七・〇〇	
計				一、五五二・三〇	

支出

種目	反當	總數量	單價	金額	摘要
種					
雜穀	一斗	六石	六・〇〇	三六・〇〇	
水田肥料		六町	二・五〇	一五〇・〇〇	

三年度 収入

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘要
畑作肥料		一町	五〇	五〇・〇〇	
勞賃		九五〇人	三〇	二八五・〇〇	所要一、二五〇人中家族勞働三〇〇人とす
役畜飼料管理				四八・二〇	
鶏飼料管理				一一四・〇〇	
豚飼料管理				一〇三・五〇	
諸材料				三五・〇〇	
農具維持費				一八・〇〇	一八〇圓の一割
建物維持費				三三・五〇	六七〇圓の五分
水利費	六町		一〇・〇〇	六〇・五〇	
諸税公課	七町		五〇	三五・〇〇	
生活費				四〇〇・〇〇	
計				一、三二四・七〇	
收支差引				二二七・六〇	

種目	反當	總數量	單價	金額	摘要
稻	三・二石	一九二石	六・〇〇	一、一五二・〇〇	
粟	八〇貫	四、八〇〇貫	三〇	一四四・〇〇	
雜穀	一・三石	一三石	四・〇〇	五二・〇〇	
荳	一〇〇束	一〇〇〇束	五〇	五〇・〇〇	
牛糞	一、〇〇〇貫	一、〇〇〇貫	六〇	六〇・〇〇	
養鶏				一五四・四五	
養豚				一三七・〇〇	
計				一、六五〇・四五	

種目	反當	總數量	單價	金額	摘要
種				三六・〇〇	
雜穀	一斗	六石	六・〇〇	一・五〇	
水田肥料		六町	三・〇〇	一八〇・〇〇	
畑作肥料		一町	五〇	五〇・〇〇	
勞賃		九五〇人	三〇	二八五・〇〇	
役畜飼料管理				四八・二〇	
鶏飼料管理費				一三一・〇〇	

種目	反當	總數量	單價	金額	摘要
豚飼料管理費				一〇三・五〇	
諸材料				三五・〇〇	
農具維持費				一八・〇〇	
建物維持費				三三・五〇	
水利費	六町		一・〇〇	六〇・〇〇	
諸税公課	七町歩		五〇	三五・〇〇	
生活費				四四〇・〇〇	
計				一、四一一・七〇	
収交差引				二三八・七五	

C、手持資金

前項説明の通りの設備をなして又其の事業が豫想の如く進むべきものと前提に於て移民の要す手持資金及地代並借入金の返済豫想を見るに次の如し

算出基礎

建築物費 二六八四〇〇 建築費六七〇圓の五分の二
 農具費 一八〇・〇〇

耕牛費 五〇〇〇
 種豚費 三三〇〇
 事業經營及生活費 一、一〇〇〇〇〇
 渡航費

初年度所要經費の約八〇%
 約三〇〇〇圓を要する見込みなり全額補助

計 一、六三二一〇〇
 經營資金借入 一、二〇〇〇〇〇

差引所要手持金 四三二一〇〇

この計算に従ひ普通移民は金四〇〇圓以上の資金を有するものに限り移民たる資格を與ふることとするも家族内に若し被扶養者を含まざる時は手持資金は金二〇〇圓迄減することを得るものとす

D、土地代並借入金返済表

移民一五箇年間の收支豫想

年次	収入	支出	差引	土地代元拂込	借入金元利拂込	再差引	残高累計
一	一、三九一、二〇〇	一、三〇〇、七〇〇	九〇〇、五〇〇	一	一	九〇〇、五〇〇	九〇〇、五〇〇

年次	収入	支出	差引	土地代元拂込	借入金元利拂込	再差引	残高累計
二	一、五五二、三〇〇	一、三二四、七〇〇	二二七、六〇〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	四三二、二七	一三三、七七七
三	一、六五〇、四五〇	一、四一一、七〇〇	二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	一八八、二〇〇
四			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	二四二、六三三
五			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	二九七、〇六六
六			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	三五二、四九九
七			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	四〇五、九二二
八			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	四六〇、三五五
九			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	五一四、七八八
一〇			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	五六九、二二一
一一			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	六二三、六四四
一二			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	六七八、〇七
一三			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	七三二、五〇〇
一四			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	七八六、九三三
一五			二三八、七五〇	七〇〇、八〇〇	一一三、五三三	五四、四三	八四一、三六六

ホ、北滿に於ける畑作中心經營案

A、固定資本

種目	數量	金額
種目	數	金額
住家	棟	三〇〇・〇〇
倉庫	棟	二〇〇・〇〇
厩舎	棟	八〇・〇〇
牛舎	棟	一二〇・〇〇
鶏舎	棟	五〇・〇〇
豚舎	棟	五〇・〇〇
井戸	眼	一〇〇・〇〇
土壁	眼	一〇〇・〇〇
耕馬	頭	二八〇・〇〇
驢	頭	二〇・〇〇
牛	頭	一五〇・〇〇
緬羊	頭	三九〇・〇〇
種豚	頭	三三三・〇〇
農具	頭	三五〇・〇〇

支那式家屋

牝一八〇頭@一〇圓
牡一〇頭一五圓五戸共同

計
B、事業の收支
初年度
収入

二、二二三・〇〇

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘	要
大豆	〇・九石	九〇石	四・八〇	四三二・〇〇	一〇町步	
玉獨	一・二石	七〇石	三・五〇	二四五・〇〇	七町步	
粟	一・〇石	七〇石	三・二〇	二二四・〇〇	七町步	
燕麥	二・五石	二五石	二・〇〇	五〇〇・〇〇	一町步	
小麥	〇・八石	四〇石	六・五〇	二六〇・〇〇	五町步	
ルサ	二〇〇疋	六、〇〇〇疋	一・二〇	七二〇・〇〇	三町步	
莖				一四八・〇〇		粟稈を堆肥に使用するとして省く
養鶏				四八・二〇		
養豚				一三七・〇〇		
乳牛				一五〇・〇〇		
緬羊				六七・八四		

計
1
1
1
1,834.04

二三四

備考 五〇町歩中一七町歩は放牧地として余裕の生ずるに従ひ優良放牧地となすものとす

支出

種目	反當	總收量	單價	金額	摘	要
大豆種子	五升	五石	四・八〇	二四・〇〇		
玉蜀黍種子	四升	二・八石	三・五〇	九・八四		
粟種子	六合	〇・四二石	三・二〇	一・三四		
燕麥種子	七升	〇・七石	二・〇〇	一・四〇		
小麥種子	六升	三・〇石	六・五〇	一九・五〇		
ル1サン	二・五町	七五町	一・〇〇	七五・〇〇		
勞賃		一・六〇〇	三〇	四八〇・〇〇		大豆、小麥、ル1サン反當五人高梁、粟陸稻六人總計一、八〇〇人中家族勞働二〇〇人とす但當地方に於ける反當人夫は三人見當なるも單價高き爲結局相似たるものなり

二年度 收入

收支	計	差引	反當	總收量	單價	金額	摘	要
役畜飼料管理						一五〇・〇〇		一頭年額三〇圓
鶏飼料管理						七五・〇〇		
豚飼料管理						一〇三・五〇		
牛飼料管理						九六・三〇		
羊飼料管理						一〇三・二〇		
諸飼料				三〇町		九〇・〇〇		
農具維持費						三五・〇〇		三五〇圓の一刻
建物維持費						五〇・〇〇		一、〇〇〇圓の五分
諸稅				五〇町歩		一二五・〇〇		
生活費						四〇〇・〇〇		
計						一、八三九・〇四		
支						(-) 五〇・〇〇		

品名	反當收量	總收量	單價	金額	摘	要
普通作物收入	六〇〇町	八、〇〇〇町	一・二〇	一、三五九・〇〇		
ル1サン				二一六・〇〇		

二三五

收支差引	計	生活費	諸税公課	建物維持費	農具維持費	諸材料	羊飼料管理	牛飼料管理	豚飼料管理	鶏飼料管理	役畜飼料管理	勞賃
												一、五〇〇人
												三〇
												四五〇〇〇
												一五〇〇〇
												一三一〇〇
												一〇三・五〇
												九六・三〇
												一二七・二〇
												三〇〇〇
												三五〇〇
												五〇〇〇
												一二五〇〇
												四四〇〇〇
												一、七九四・〇四
												五一〇・八五

緬羊は三年度に比し四年度は三、二〇圓五年度以降二、八八〇圓の利益を増す

C、手持資金

算出基礎

建築費 四〇〇〇〇 建築費一、〇〇〇〇圓の五分の二

農業具費	耕馬費	牛	緬羊	種豚	事業經營及生活費	初年度缺損	計	經營資金借入	差引所要手持金	D、土地代並借入金返済表
三五〇〇〇	三〇〇〇〇	一五〇〇〇	三九〇〇〇	三三三〇〇	一、五〇〇〇〇	五〇〇〇	三、一二八〇〇	二、七〇〇〇〇	四二八〇〇〇	
										初年經營費の約八〇%

移民十五箇年間の收支豫想

年次	収入	支出	差引	土地代元利拂込	借入金元利拂込	再差引	残高累計
一、八三四・〇四	一、八三九・〇四	一、八三九・〇四	六五〇〇	—	—	(+)三三〇〇	借入金を以て増補

二二〇五・一〇二	二一七三・一〇四	三一九・九八	三七・五〇	一〇八・〇〇	一七四・四八	一六九・四八
三二・三〇四・八九	一、七九四・〇四	五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	二九二・五六
四		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	四一五・六四
五		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	五三八・七二
六		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	六六一・〇八
七		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	七八四・八八
八		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	九〇七・九六
九		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一〇三一・〇四
〇		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一一五四・一二
一		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一二七七・二〇
二		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一四〇〇・二八
三		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一五二三・三六
四		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一六四六・四四
五		五一〇・八五	一一七・五〇	二七〇・二七	一一三・〇八	一七六九・五二

第九節 結

論

私は移住地建設の要務を帯びて滿洲に來た、事情の許す丈けの視察をなし、會へる程の人々に面會してその所説を聞き、得られる丈けの資料を集めてその調査研究をした、而して、多年移住地建設の實驗に照して一々之れを考察して此一巻にコンセンストレイトした。

私は總論に於て、日本民族の滿洲移住の絶對的必要であることを論じ、移住地としての滿洲について概略を述べ、滿洲に於ける先住民族が、種々なる鬭争と困難との間に、その生活の地歩を築いた跡を見た、而して翻つて滿洲に於ける過去の日本人の何をなし、何を殘し、何と批評されて居るかを回顧した、それ等の根柢の上に對滿日本人營農移住の高等方策を列舉し、更に移住實行機關の國家的なるべき最高機關と、府縣を單位としたる移住の建設計畫について筆を進め、更に一移住者の經營標準について論議し、その間に平生考ふる所を織り込みて讀者の參考に資することとし、茲にいよいよその結論に達することになつた。

一、支那人優秀論に反對す

支那民族五千年の文化は尊敬せずに居られない、彼等の住宅、彼等の衣服、彼等の食物、彼等の社交、彼等の努力、彼等の蓄財、彼等の文字、彼等の藝術、等々々々、これ等の内には常に日本人に比較

してのみならず、世界の何れの邦人に比較しても優るとも劣ることなき項目が必ずしも少ないものではない、満洲を旅行して見て痛切に感ずることは日本の移住者は、歐米に行く時計りではない、満洲に移住する場合でも私共に云ふ所の「海外禮式作法」を學ばねば歐米人のみならず支那人にも馬鹿にされると思はるる點が少なくない程である。

然かも満洲到る所に於て私は「日本人は支那人にはかないません」と云ふ嘆聲を聞いた。農民に聞けば「百姓では日本人は支那人にかなひませぬ」と云ふ、商人に聞けば「商業では日本人は支那人にかないませぬ」と云ふ、工場主は「日本人は駄目で支那人はよい」と云ふ、満洲は「支那人優秀論」で一杯である。

支那人が日本人より優秀だと云ふならば、満洲は支那人に委任すべきである、それが出来ないのは何故であるか？「日本の軍人は強い」「日本人は愛國心がある」「満洲は日本の生命線である」それ等の理由は、満洲に對し日本人の發言權とはならない、少なくとも日本人が支那人よりも優秀であると云ふことにあらざれば、満洲は北米の如く日本人は支那人文化の精粕に満足して居ればよい筈である。

私は靜かに支那人について考へた。而して日本人の唱ふる支那人優秀論に反對する結論に達した、加州でも南洋でも農業經營に於て日本人は遙かに支那人の上にある、満洲に於ても正にその通りであ

る、日本人の農業的技能は遙かに支那人の上にある、只、満洲の日本人の農業家は、日本の代表的の農業者ではない、それでも支那人以上の成績を挙げ得るのであるから、日本本國に於ける近代の農民は支那人などよりは、その普通作物でも特殊作物でも、家畜飼養でも養雞でも、野菜栽培でも遙かに優秀であると私は確信を以て斷言が出来るのである。

商業に於てもその通りである、嘗て森村組紐育支店主任の村井保固翁が私に話した事がある、紐育で東洋雜貨の店を開かうと思ふて行つて見ると既に支那人が盛にやつて居るので、一日支那人の店に行つて見て居ると、彼等の腦や腕は遙かに日本人の下にある事が知れたので、之れならば彼等の上を行けると信じ之れを實行して豫期の結果を得たと云はれた。支那人が百萬圓以上の資本運轉になれば穴だらけで駄目だとはよく聞いた話であるが、更に少資金の商業でも彼等は必ずしも立派な腕がある譯ではない様である。彼等が少資本の經營では商品の仕入れに多額の運搬費を要し、その資本金の利子は非常に高くて、支那街の内部に入りその内容を調査すれば、その代替りの極めて多数にしてひんばんなるに驚くと云ふ、即ち日本町は衰亡し支那街がな盛ると云ふ觀察は皮相であつて、その真相に至れば、支那商人が日本人以上の商業的技能を有するとは斷言出来ない、又、支那人はよく團結し組合組織にてよく結合すると云ふが之れも一面の觀察であつて、支那人は利己心が強い爲めによく組合を組織はするが、又よく分裂をすると云ふのである、合辨事業が支那人の故に不振であることを見れ

ば此觀察も首肯せらるるのである。況んや利己的にして犠牲奉仕の精神はなく孝行なりと雖もその孝たるや利己的の孝行であつて眞實の孝行ではないと云はれ、従つて政治的にも軍事的にもその腦力は劣等である、奉天が支那人に依り二百年かかつてあれだけの發展をしたと云ふのに、日本人は約三十年で彼等に對抗するの成績を示して居るに依つても知ることが出来るであらう。かく觀じ來たれば、支那人優秀論は恐るるに足らぬものである、然らば何故に日本人は滿洲に於て退嬰的になり、支那人は益盛になるかと云ふことになるが、その原因の一は彼等の滿洲に費したる時間が日本人に比して長いと云ふことである、日本人をして二三十年以上も滿洲を自由にさせたら更に偉大なる成績を示したことであらう。他の原因の一は支那人の数が日本人より多いことである、日本人が三十年にして二十方に達したる間に、支那人は三十年間に一千万人移住して居る、此點に於て日本人は支那人に劣るのである、最近三十年間の對滿方策が支那人は移住を中心とし、日本人は只武威をかがやかすことを以て目標としたのでその結果が今日に表はれて來たのである、故に對滿移民政策に主力を注ぎ多數の日本人を滿洲に移住せしむれば、支那人に對抗して行く位のことは何でもないのである。

二 日本人對滿移住の道德的考察

日本は滿洲の爲めに日露戦争で十萬の生靈と廿億の資金を投じ、更に爾後毎年多額の治安保護費を支辨したと云ひ又、條約で各種の利權を獲得したと論じ、滿洲は由來支那の所有する所ではないとい

ろいろ日本人一流の勝手の理屈をつけるが、何と批評しようか、滿洲は大体に於て支那人の所有すべき、少なくとも今日までは支配して居た所に相違ないのである。その支那人の滿洲に日本人が侵入して來ようか云ふには何等かの道德的理由がなくてはならぬ。

滿洲に居住して居る支那人は現在の世界に於ては自ら國を治めることの出来ない民族である、これは滿洲丈けではない支那本土に於ても、約一世紀の間は國の形をなしてその實はないのであり、滿洲もその通りである、従つてその住民は生命財産の安全を期することは出来ない。

滿洲在留の朝鮮人が約百万人居るが、此民族も一國を形成する腦力のない民族であつて、此點に於ては支那人と大差はない、約十五萬のロシア人が居るが、之れも或は白と云ひ或は赤と云ひ、支那兩民族よりは優秀であるが、以て滿洲在留の人類の幸福を計るの實力はないのである。

此間に處して日本人のみは、その國を建て、之れを維持し、之れを發育させて行く腦力を有するのである、即ち滿洲は支那、朝鮮、ロシアの三民族では住民は幸福になれないが、日本人が之れに加はることに依つて健全なる國家を組織し維持し發達せしめ得るのである、之れは少なくとも日本人が滿洲に移任せねばならぬ道德的の第一理由とあるべきであらう。

更に滿洲の富源はその農業たる林業たると礦工業たると矢張り日本人の移住協力に依つて理想的に開發せらるるのである、滿洲の富源を米國人や英國人の資本と技能のみに依つて開拓したのでは、滿

洲に落つるものはその金銭と若干の勞働賃金（それは滿洲人の喰ふ丈けのもの）で、他は英米人の私腹を肥やすに過ぎないが、日本人の手に依り開發すれば、その移住者その他の利便に供せられ大半は滿洲の開發と福利増進に利用せらるるのである、これが日本人滿洲移住の道德的第三理由となるのである。

日本人は東西兩洋の文化を咀嚼して居る點に於て世界第一である、滿洲の建國には此咀嚼されたる文化を多量に要するのであつて、之れは日本人でなくては出來ぬことである、即ち日本人は世界の文化を滿洲に移植するの道德的實力を有するのである。滿洲は今日日本の武力と威力に依つて統治されて居るが、他日、日本人の世界的人類愛の精神に依つて潤ふ時代が來るであらう。又、左様の心掛けを以て努力せねばならぬ。

三 亞細亞民族建國と日本民族の使命

歐州人はその混合の努力に依つて北米合衆國と稱する歐米文化結晶の一國を建設した。亞細亞民族もその代表的の文化的建國をなすべき使命がある、滿洲の郷土は日・支・鮮・露蒙五個の亞細亞民族の同化した亞細亞的建國の爲めには理想の郷土であり唯一の土地である、その事實上の盟主となり指導者となるべきものは實に日本民族である、日本民族は遠く南米の中心地帯に於て世界的理想建國の使命を把持して居るが、近く滿洲に於て亞細亞の代表的建國を一大使命として持つて居る筈である。日本

本國は美はしく慕はしい土地ではあるが、日本民族が世界的使命を遂行するには余りに小さい所である、母の懷は最も温かい所であるが青年の雄大なる活動の舞台でないと同様である、今や日本民族は大和島根と稱する母の懷を出でて雄大なる世界的使命遂行の門出をしたのである。亞細亞の諸民族を率ゐてその天示の建國をなし以て亞細亞の平和と幸福の爲めに貢献し進んで世界を天國化するの大運動大使命の遂行への進行が其スタートを切られたのである、日本民族の世界的使命の任や重く、その行程は遼遠であるが、その眼前には赫々たる光明と希望とがあつて、我等日本民族の熱血は胸中に高鳴るのである。（奉天・昭和七、五、二九）

滿洲に於ける移住地の建設（終）

GANNANDO-HOTEN
KANOA TOKYO
店書堂南巖

34.5.27



